

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500129		
法人名	社会福祉法人敬愛会		
事業所名	グループホームしくらめん		
所在地	岐阜県中津川市阿木2811-1		
自己評価作成日	令和元年10月15日	評価結果市町村受理日	令和2年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2191500129-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和元年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の想いに寄り添い、日々穏やかに過ごして頂けるように考えながら、生活する上で、得意なことは力を発揮して頂き、苦手な事はさり気なくお手伝いしています。安心、安全に表情豊かに暮らして頂きたいと思います。良い環境の中で、地域の方々との交流、ご家族の方との関わりを大切にしていきたいと思い、様々な取り組みをしています。爽やかに過ごして頂けるように考えながら、排泄ケアでは、布パンツを使用するように工夫しています。また、季節行事も大事にして、施設内、施設外で計画しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して5年目の事業所は、同法人の隣接施設や他の利用者サービスと連携して、利用者が持てる能力を発揮しながら、生き生きと暮らせるよう支援に取り組んでいる。定期的に開催する運営推進会議では、参加者全員が意見を述べられるよう工夫し、それらの意見を運営に反映させ、サービスの向上につなげている。管理者は、併設の特別養護老人ホームの医療・介護・防災等の施設機能を活かしながら、年間行事やイベント等で連携し、利用者・家族との信頼関係作りに努めている。職員もまた、自己申告「業務評価シート」で自身の働く意欲を高め、より良い利用者支援ができるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬愛の心・地域に愛され地域とともに」の理念に基づいて職員全員で取り組んでいます。毎月一回の会議の際レジメに記載し、常に意識するように工夫しています。	理念は目につきやすい玄関に掲示している。学習会や職員会議の資料にも記載し、その意義について確認をしながら全職員で共有している。利用者が住み慣れた地域と関わりながら、生き生きと過ごせるよう、敬愛の心を持って支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方が毎月一回、工作や手遊び、歌を唄う等で交流をしてくださいます。また、地域の行事(運動会・敬老会・認知症カフェ・中学生の福祉体験学習等)にも参加して地域との交流に繋がっています。	地域の様々な行事に参加し、ホームの行事には、地域住民を招いている。また、地域のボランティアが定期的に訪れたり、中高生の体験学習を受け入れ等で交流している。併設の多目的ホールは、地域に開放されており、日常的に住民との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の夏祭り参加で出し物をしたり、中学生・高校生の福祉体験にも携わっています。今年度もラン伴参加を予定しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の会議の開催時には、出席者一人一人から意見を頂くようにしています。報告、話し合いをして、皆様の声を聞きながら、運営に活かせるようにしています。	運営推進会議を隔月に開催している。活動内容や今後の予定、ヒヤリハットなどを報告し、議事録も詳細に作成している。会議では、出席者全員が発言できるように工夫し、災害対策や虐待問題等について意見交換しながら、改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内のグループホーム部会への参加をしています。また、研修会等にも参加しています。部会、運営推進会議にも市役所職員の出席者があるので、開催時にも話をする機会を作っています。	市の担当者とは、グループホーム部会やケアマネ部会で意見交換をし、運営推進会議でも、困難事例を相談しながら助言を得ている。市の介護相談員を受け入れ、市主催の研修会には積極的に参加するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束にあたる行為はしておりません。玄関ドアの施錠は夜間帯のみ行います。年度初めの法人全体の研修会で周知し、毎月一回のGH会議では、ヒヤリハット・事故報告書の検討事項を入れています。	定期的に身体拘束等適正化委員会を開催している。職員研修も兼ねて、拘束の具体例を挙げて話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。止むを得ない場合に該当する要件についても、正しく理解し、全体で共有している。玄関の施錠は、夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」の研修会をしたり、言葉の暴力、無視すること、放置することが虐待にあたると職員全員が注意しながら「虐待防止」に努めています。		

岐阜県 グループホームしくらめん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	計画作成担当者が権利擁護推進員をしています。職員全体会で講習会があり、参加者は学ぶ機会がありました。今後も、常に考えながら、意識していきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族が納得されるように説明しています。常に不明な点があればその都度対応することになっています。入院時には改めて説明して、不安がないように話をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時に報告、ご意見を伺う機会を作っています。また、年に2回の家族会を開催し、行事への参加の呼びかけをしたり、要望を聞く機会を作っています。	家族の意見を訪問時や家族会、運営推進会議でも聞いている。行事の際の利用者の様子や活動は、ホーム便り(新聞)で伝えている。家族から、「個人的な話は、本人のいない場所で」との意見があり、改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の部署代表者会議で運営会議の報告を受け、提案もします。会議報告をGH会議で伝達しています。GH会議で話し合った事を、次の部署代表者会議にて協議する事もあります。	職員の意見や提案を聞く会議と、部署会議を毎月行い、ケアの改善や利用者とのコミュニケーション方法について話し合っている。また、管理者は、職員の自己評価「業務評価シート」を個々の意識向上につなげながら、職場環境作りにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の休日の希望はほぼ聞き入れて勤務表の作成をしています。法人として取り組んでいる「業務評価シート」を正職員に記入して頂き、意識の向上に繋げています。また、居室担当者、行事担当者を設けて、アイデアを出し合う工夫をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で、改善点や注意をしています。また、何故？どうして？と疑問を持つようにと話しています。介助方法細部を会議で話し合い、納得して介助にあたれるようにしています。研修会も意味のある内容になるように心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH部会の参加、部会研修会に参加する等で交流を深めて意見交換する機会を作っています。また、機会があれば他のGHへ出向き、交流を図りたいと考えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接や情報収集(ご本人、ご家族の方から)実際にご本人と接する機会を作っています。その中で、困りごと、得意な事、不得意な事、等を職員が情報交換し、共有することで対応策を考えながら、安心して頂けるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に向けての事前調査の際にある程度の家族の方の困りごと、不安なきもちを伺いながら、ご本人と家族の方との関係や職員との信頼関係を築けるようにしています。電話やメールで密に連絡を取るよう工夫しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際、ご本人の気持ち、ご家族の方の想いを伺い、先ずは何が必要か？どんな方法が良いのか考えながら対応しています。場合によっては家族支援が必要な方もあるため、お願いすることもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ち、やりがいのある仕事を、状態に応じて提供することで喜びを感じていただけると良いと思います。掃除や配膳等の役割を果たす事でご本人の生きがいを見つけておられる方もいらっしゃいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居を機に、家族の方との関係が変化する方もあります。離れて暮らすことでお互いが穏やかな気持ちになり、面会や外出が出来、家族の方との結びつきも良好な状態になるようです。電話やメールで連絡を取り合い、協力をして頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間や面会者の制限はありません。家庭にいた時、それ以上に会いに来ることができるようにと楽しみにされている方もあります。地域との交流も大切にして、行事への参加もしています。	家族や親戚、近隣住民が訪れている。地域の敬老会や文化祭に参加したり、法人合同のイベント等で、馴染みの人と交流できるよう支援している。本人が希望する場所へは、家族の協力を得て出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で相性の悪い方、また、会話の中で陰湿なムードになることもあります。そんな時は職員が間に入り、時には話題を変えて、戸外へ出たりで気分転換を図るよう工夫しています。公平な立場で、橋渡し役もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先が特養の方は、散歩を兼ねて面会に行きます。情報交換もしています。転居先で亡くなった方、状態に変化があった時には訪問、面会して、関係を保つようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、本人の要望に応じているつもりですが、本人の気持ち以外に病気のこと、家族の想いにも目を向ける必要がある事柄もあるので、検討しながらの対応になります。出来ることは可能な限り意向に沿っています。	利用者の生活歴、家族構成、特技、習慣、こだわりなどを事前に把握している。日々の支援の中で、新たに得られた本人の思いや意向についても、職員間で共有し、その人らしい暮らし方ができるよう、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の話、ご家族の方からの情報収集から、それまでの生活歴を把握し、ホームでの生活において参考にしています。出来る限り自宅での生活に近づく事が出来ると良いと思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の意向確認、情報収集を行い、自宅での様に生活され1日を過ごしていたのか、ホームではどの様に過ごしていただくのか？考えながら、得意な事は力を発揮していただきながら、介助方法を検討しています。体調管理にも努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者のプランに沿ってケア会議、カンファレンスで話し合いながら、対応策を考えています。状態に変化がある場合には本人の状況に合わせて対応しています。本人の気持ち、家族の方の想いを伺いケアに反映するように工夫しています。	計画作成担当者を中心にカンファレンスを行い、家族の意向を取り入れながら、介護計画について話し合っている。利用者の状態に合わせて、リハビリで筋力を維持し、転倒を予防できるよう取り組み、メリハリのある毎日を送るための計画作りに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の検温、血圧測定、食事量、排泄状況の記録をしています。個人ファイルにはその日の様子観察した事を記録し、体調不良時には家族に連絡を取り場合によっては受診に繋ぐ事もあります。異常時には職員同士で情報を共有しケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば急な体調の変化がある場合に、家族の方が直ぐに動けない時(遠方に住んでいる等)職員が病院受診に同行する、また、家族の方より要望があれば、職員が対応することもあります。連絡を取り合いながら、方法を検討します。		

岐阜県 グループホームしくらめん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流、ボランティアの方との交流、認知症カフェへの参加等しています。また、馴染みの方との関わりを持てるようにしています。(隣接するデイサービスの利用時に訪問する等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者様のかかりつけ医、往診対応医、法人の嘱託医とありますが、どの方も、職員、家族の方との連絡を取り合い、受診に結び付けています。場合により職員が同行することもあります。往診対応の方も増えて来ました。	かかりつけ医は、本人・家族が選択でき、協力医の往診もある。従前のかかりつけ医への通院は家族が担当が、場合によっては職員が同行している。訪問看護や法人の看護師とも連携を図り、医療情報は家族と関係者で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する法人の看護師の協力体制があります。また、往診対応の方の訪問看護も受けられるように工夫しています。日々の様子観察、検温、血圧測定を決まった時間に行い、異常時の早期発見に努めるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、退院時カンファレンスを施設の職員と看護師とで行い、情報交換を行います。入院中も面会に行き、状態を確認し、退院後の生活に繋げていくように工夫しています。家族の方とも連絡を取り合いながら対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度の更新、状態に変化がある場合には、その都度家族の方と相談しています。本人の気持ち、家族の方の想いを伺い、出来る限りの対応を行います。場合によっては、特養への申し込み、特養での待機状況の確認をしています。入院中の方の状態に変化がある場合には退院後の検討をします。	重度化しても、段階的に家族と話し合いながら、出来る限りの支援をしている。介護度に応じて特養や医療付き施設への申し込み、医療機関への移転等、家族が安心して選択できるよう支援している。看取り支援は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の研修会をして、急変時の対応マニュアルを確認し、周知しています。一人で判断する事ができない場合は、隣接の特養の看護師に相談して、早期発見、対応策を考えながら、対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で緊急時連絡網を定期的に廻して緊急時に備えています。マニュアル作成し、それに沿って行動できるように心掛けています。備蓄品も少しずつ揃えるように工夫しています。	法人全体での防災組織を編成し、定期的に合同訓練を実施している。今年度は、停電時の対応手順を整え、掲示をしている。連絡網とマニュアルを定期的に見直し、備蓄を確保している。	緊急時において、持ち出し用の利用者の個人記録の整備及び設置場所についても事業所全体での周知を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の想いを伺いそれに沿って介助方法を検討しています。同性介助での入浴、声掛けの声のトーン等にも配慮しています。入所間もない方との信頼関係を築くことも、丁寧な対応をしながら、安心して頂けるよう工夫しています。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、思いに寄り添いながら、日々のケアに努めている。言葉かけは、慣れ合いにならないよう心がけ、声のトーンにも配慮している。外部の講師を招いて接遇の学習会も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が利用者様本人の気持ち、思いを聴く機会が作れるように、1対1になる時間を大事にします。ふとした瞬間を見逃さないようにし、情報交換、情報の共有をし、本人の気持ちに寄り添えるようにしています。その上で援助に繋がっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを表出されない場合もある為、充分には出来ませんが、表情を見て察したり、職員同士で意見交換をしながら、本人の想いに近づくように工夫しています。希望を言われる方も出来る限りの対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅から持参されている衣類、ご自分で気に入っている衣類等、本人に選んでいただきながら、場合によっては職員が「これはどうですか？」と聞きながら対応をします。お化粧したり、眉毛を描かれる方もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1か月に1回以上は昼食行事を行います。利用者様の食べたい物を聞いてメニューを考えながら、出来る事は一緒に行います。季節を感じて頂く工夫をして、食べることが楽しく感じられるようにしています。	利用者の状態に合わせた食事形態で提供している。毎月、嗜好調査も行い、月に1度はパン食を取り入れ、好評を得ている。利用者も準備や片づけに関わり、電子オルガンの自動演奏を聴きながら、職員と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じて、お粥、硬い物は刻み、大きい物はカットする等対応しています。また、食が進まない時は本人の好きな物を家族の方に準備して頂く等工夫しています。水分摂取も心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でされる方にも食後の声掛けをして、出来る限り毎食後に歯磨きの習慣を促しています。介助の必要な方も、毎食後にケアに繋がっています。		

岐阜県 グループホームしくらめん

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り布パンツで、夜間帯のみ紙パンツで、それぞれの合ったパットの使用をしています。オムツの使用は現在はありません。排泄状況を確認し、色々と試しながら、最適な方法を検討し、実施しています。	日中は全員が布パンツで過ごしており、声かけと誘導を行いながら排泄の自立を支援している。夜間は、個々の状態に合わせて、紙パンツやパッドを適切に組み合わせ、本人負担費用の削減にもつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服薬の工夫をしています。また、水分摂取にも配慮しています。日々の生活の中で、運動や散歩も取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り同性介助での対応をしています。また、時間や順番にも配慮しながら、本人の要望を聞くようにし、気持ち良く入浴できるように工夫しています。	入浴は、本人の体調や希望に添って支援している。拒む人には、タイミングを工夫したり、介助者との相性にも配慮している。個々のこだわりや入浴習慣を受け止め、楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を工夫し、活動量を上げるようにし、散歩や運動を取り入れています。昼寝の時間も長くないように配慮しています。温度管理や掛け物にも気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おくすり手帳や注意書きを確認し、内服薬の変更があった時には、状態に変化がないか？観察するように伝言しています。ご本人の様子を見ながら受診の際、医師に相談出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の日課になること、歌を唄う、身体を動かす、頭の体操等、好きなこと、苦手なこと、大勢で行くこと、少数で行く、無理強いはずに行います。個々に散歩したり、買い物に同行する等、工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近距離への買い物同行、日々の散歩、行事で皆さんで外出等が多いです。個人的な外出も本人の気持ちを伺いながら、計画します。家族の方との外出をされる方もあります。	日々、周辺を散歩したり、地域の行事や買い物に出かけている。年間の外出計画を立て、季節の花見や紅葉狩り、バラ園、ぶどう狩りなど、ドライブを兼ねて外出している。また、家族の協力を得て、外食や買い物などへ出かける人もある。	

岐阜県 グループホームしくらめん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人預かりでお金を準備しています。個人的に欲しい物(飴玉)の購入をしたりします。外出の機会にもお金を使いますが、殆ど、こちらで管理しています。普段から個人のお金の所持はしていませんが必要に応じて出金できるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも可能な状態です。手紙を自分でやり取りされる方はありませんが、絵手紙を書いて出したりする事があります。年賀状を準備して職員と一緒に書いて出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り皆さんが居心地の良い環境整備をしています。好きな場所、落ち着く場所で過ごしていただいております。温度管理、冬の乾燥を防ぐ様に加湿器を使用しています。皆さんの手作りの工作を飾り付けたり、季節を感じて頂く工夫をしています。	随所に観葉植物や花を飾り、食堂兼居間は、広く明るい空間である。壁には、折り紙やはり絵、利用者手作りの吊るし雛が飾っており、季節感がある。ベランダのプランターや軒下の干し柿など、自宅のような落ち着いた生活感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではありますが、それぞれの好きな場所でくつろげる様にしています。一人になりたい、のんびりしたいと個人のお部屋で過ごす方もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに家庭で使用していた物を持ち込んだり好きなようにレイアウトして頂いております。毎日の日課でモップ掛けをして頂いて、清潔に保つようにしています。	居室には、馴染みの物を持ち込み、自分好みに配置している。常時使わない物は、クローゼットに収納している。趣味の作品や家族の写真など、好きなものを目線に飾り、整理整頓と清潔保持で居心地よく暮らせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に配慮しています。危険のないように、職員の目が行き届くようにしています。プライバシー保護の為に暖簾を希望される方もあります。		